

物です。訊かれたことには誠実に答える人が面接試験に合格します。英語で自分の仕事を人に説明する練習は今からでもできます。では前のページにある open question に答える練習をしてみましょう。ウェブ上には interview questions として他にも例があるので、前もってどう答えるか練習しておきます。

いかがですか。思った事をそのまま英語で表現するには頭の中で和文英訳しては間に合いません。何度も練習することで英語での発話ができる回路が脳の中にできるので、歩きながらも思った事を英語でつぶやく練習をしてください。声に出すのが難しい場所では、頭の中で「言う」のも効果があります。いつも「英語だとこれをどう言うか」と考えるクセを付けます。日本では英語を話す機会があまりないので、普段から頭の中で回りの状況を英語でしゃべる練習をしておくと、イザという時にぐっと楽になります。

《シリコン・バレーの会社は現場の管理職に人事権があります。部下を雇うのも首にするのもその上司です。年度予算を立てる時に head count といってその上司が部下を何人持てるかが決まります。人事の仕事は [Linkedin](#) など良さそうな人を見つけて面接の予定を組んだり、候補者の犯罪歴を調

べたりすることです。朝から晩まで二日に分けて、将来同僚となるチームの人間ほぼ全員と面接します。1次審査と2次審査のような具合です。管理職は候補者が以前働いていた会社の同僚に電話して、その候補者の働き具合や問題点などを探ります。その結果チームが良いと判断した人に対して管理職は勤務開始日と給料の交渉をします。労働ビザが必要な場合は人事が手続きをします。》

《グローバル経済では、他の国でできる仕事は賃金の安い他の国に移ってしまいます。日本の賃金は世界一高いので、製造業などはアジアもしくは市場に近い国に移りました。IT産業はインターネットさえあれば世界中どこでも可能なので、インドや中国で発展しています。日本には日本語の壁があると油断していると、エンジニアの仕事が中国やインドに移ってからジタバタすることになります。でも英語ができれば、中国やインドで日本企業の仕事を受注することができます。現地の従業員を雇う場合、エンジニアといえども英語で面接をすることになるので、英語での面接練習は外資系で働く人だけのものではありません。今すぐ必要でなくても、今後必要となる可能性が高いのが英語での面接能力です。》